

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9
(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyu@city.himi.lg.jp

ホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/department/Top/kyouiku-i/kyouikukenkyu>



「不易」な部分を大切にしたい

氷見市小学校長会 会長

氷見市立比美乃江小学校 校長 濱田 義博

「不易」と「流行」という言葉を時々耳にしますが、元々の語源は何なのか気になって調べたことがあります。すると、松尾芭蕉の残した言葉の中にあることが分かりました。ただ、芭蕉自身が書き残したのではなく、弟子の去来などが書いた書物の中に、芭蕉の言葉として残されているのです。それが、以下の文です。

「蕉門に千歳不易の句、一時流行の句と云う有り。

これを二つに分かって数えたまえども、その基は一つなり。不易を知らざれば基立ちがたく、流行をわかまえざれば風新たならず」 (去来抄)

「不易」とはずっと変わらないことであり、「流行」とはその時々に合わせて変えていくことです。これをさらに解釈すれば、「不変の真理を知らなければ基礎は確立せず、変化を知らなければ新たな進展がない」ということになります。このような解釈・考えが、中央教育審議会や臨時教育審議会の答申の中で引用され、広く教育関係者の間などで使われるようになったそうです。

「不易」と「流行」はともに大切だと思いますが、私は、「不易」にウエイトをおいてきたように思います。それは、人としての根本に関わることが多いと考えるからです。それでは、教師にとっての「不易」とは何でしょうか。使命感・向上心・豊かな人間性などがあげられますが、中でも私は子供理解だと考えています。子供理解を図り、その子供の個性をつかみ、それを学校教育に生かしていくことで信頼関係を築くことができると思います。また、最近の社会問題でもある少年の重大犯罪事件を未然に防ぐためにも、「心の闇」を抱えていないかと、子供を知ることとは大変重要です。

しかし、学校教育の中で、どれほど子供理解は可能なのでしょう。教師一人の目だけで、多くの子供を理解することは難しいかもしれません。それならば、

子供に向ける目を増やすことが必要となります。教師間の連携を密に行い、子供の様子を知る機会を増やします。より多くの眼差しにより、一教師だけでは気が付かないその子供のよさを発見できるかもしれません。

同様に、家庭・地域社会との連携も必要となります。家庭と学校での子供の様子は異なります。その子供の本質を知る手がかりにもなり、「心の闇」といわれるような部分に、わずかでも光を差し込むことができればと思うのです。

次に、子供と接する時間を増やすことです。特に休み時間や外遊びの時間など、子供の気持ちがリラックスされた状態の方が本当の気持ちを知るのに有効だと考えます。共に遊ぶ、共に体を動かすという行為は、教師にとって、子供と同じ目線に立つことができます。また、同じ時間に汗を流すことは、その時間を共有したという一体感・信頼感を築くことにつながります。その信頼関係が、子供に心を開かせるのではないのでしょうか。

ただ、現在の教育環境に「不易」がすべてそのまま有効とは考えていません。子供たちの現状や社会環境、教師の力量に基づいて、流行的側面を取り入れた「不易」の教育が、これからの教育には必要だと考えます。

私には忘れられない言葉があります。それは、以前、担任していた子供のおばあちゃんから言われた「先生様、孫をお願いします。」という言葉です。「先生様」と最高の言葉で信頼と期待感をもって発せられた言葉でした。教育は、信頼関係がベースに成り立っています。価値観が多様化する中でも、子供の成長を願わない人はいません。「不易」な部分を大切にしたい、子供に寄り添える教師に今一度なりたいと強く思っています。

魅力ある学級づくり推進委員

Q-U調査を生かした学級づくりと授業づくり

湖南小学校 校長 澤武 俊一

魅力ある学級づくり推進委員会では、Q-U調査を有効に活用して学級づくりや授業づくりを行うために、次のことに取り組みました。

1 授業研究による研修

比美乃江小学校の井上真孝先生にQ-U調査の結果を生かした授業を2回提案していただきました。学級の強みや弱みを知り、一人一人の学級での状態を客観的に知ること、授業づくりに生かせることが分かりました。

2 リーフレットの作成

教師一人一人が分析した結果を研修会等で活用し、学級全体の支援や個人の支援策を共有しながら学級運営力を高め、日々の授業に生かしていくことができるよう上越教育大学 教授 瀬戸 健先生のご助言をいただきながら、すぐに活用できるリーフレットを作成しました。リーフレットを個人、グループ、学校全体で有効に活用していただき、魅力ある学級づくりから学力向上を可能にする授業づくりに取り組んでほしいと思います。



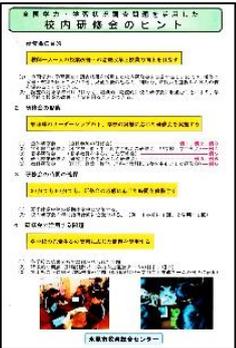
学力向上推進委員会

全国学力・学習状況調査問題の活用と対策

西部中学校 校長 久保村 裕

学力向上推進委員会では、氷見市全体の学力向上を目指し、次の2点に取り組みました。

1 「全国学力・学習状況調査問題を活用した校内研修会のヒント」の作成と配布



授業の改善を図ることを目的に、全国学力・学習状況調査問題を活用した校内研修会を推進するための「全国学力・学習状況調査問題を活用した校内研修会のヒント」を作成しました。ヒント例を参考に、各学校の実態に応じた校内研修会を実施していただきたいと思っています。

2 「小学校4年生算数の単元確認テスト」の作成と配布

全国学力・学習状況調査のA問題に対する対策として、「小学校4年生算数の単元確認テスト」を作成しました。県教委作成の「単元確認問題」を氷見バージョンにして、解答だけでなく、「ヒント」や「解き方」を加えて編集してあります。昨年までに配布した「小学校5、6年生算数の単元確認テスト」と一緒に活用してください。



英語教育推進委員会

自信をもって外国語活動に取り組むために

朝日丘小学校 校長 谷内口まゆみ

英語教育推進委員会では、外国語活動の円滑な実施に向けて、次のことに取り組みました。

■外国語活動氷見市版年間指導計画・単元計画（移行期間用）の作成

特長は、「小中連携の視点」、「ふるさと教材の活用」、やり取りの力を育てる「帯活動の導入」です。付けたい力を明確にして学びの連続性を図り、技能の向上と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指します。

■ふるさと教材（英語版）の作成

ふるさと氷見に愛着と誇りをもち、自分のお気に入りの場所や事柄について簡単な英語で説明したり紹介したりする姿を目指して、3年計画で作成します。今後、小中連携の視点や、音声教材等も工夫していきます。

■研修による指導力の向上

講演会、実技研修会、小中連携乗り入れ指導研修会、先進地域視察等を通して外国語活動の指導力向上を目指しました。

これらを活用し、積極的に外国語活動に取り組んでいただけたら幸いです。



[小中連携乗り入れ授業]

平成 29 年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文・教育実践記録の募集に対して、小学校の部 13 編、中学校の部 6 編の個人やグループからの応募がありました。

小中学校長会の協力を得て、小学校の部と中学校の部に分けて審査しました。広い視野で適正かつ公正な審査を行い、小中学校それぞれの部門で最優秀賞、優秀賞が選出されました。審査結果は下記のとおりでした。



[表彰式の様子]

<小学校の部>

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	宮田小学校	北村 麻耶	自ら考え、共に学び、「なるほど！なっとく！大発見！」が生まれる授業を目指して
優秀賞	朝日丘小学校	滝本 浩希	外国語に親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする子供の育成
優秀賞	比美乃江小学校	水野 貴文	「分かった」「できた」を実感し、主体的に学習に取り組む子供の育成
優良賞	宮田小学校	荒田 幸平	自然事象に自ら働きかけ、追究を楽しむ子供の育成
優良賞	窪小学校	田中 大樹	主体的に課題に取り組み、互いの考えを認め深める子供の育成
優良賞	湖南小学校	津田 彩花	相手を知り、思いやりの心をもって接する子供の育成
優良賞	十二町小学校	千財 唯	自分の思いを膨らませ、自信をもって表現する子供を目指して
優良賞	上庄小学校	二口美佐子	自分の健康課題に向き合い、かけがえのない健康な生活を築こうとする子供の育成
優良賞	明和小学校	三崎 優子	自らの健康課題に気付き、心と体の健康づくりを主体的に実践していく子供の育成
優良賞	速川小学校	喜多 俊介	主体的に考え、互いに関わりながら学びを築き上げる子供の育成
優良賞	久目小学校	敦賀 明音	健康な生活について考え、主体的に実践していく子供の育成
優良賞	海峰小学校	海峰小学校	自分の考えをもち、関わり合い、学びを実感できる授業づくり
優良賞	灘浦小学校	研究グループ	主体的・協働的に探究し、確かな学びをつくり上げる子供の育成

<中学校の部>

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	西條中学校	吉國 京子	互いに高め合いながら学力向上を図る生徒の育成
優秀賞	北部中学校	生徒会担当部会 笹木邦紘 中山隼人 柿谷俊輔 山崎拓郎	自ら考え、判断し、主体的に行動する生徒の育成
優良賞	南部中学校	宮腰 敏子	自己有用感を高めながら、主体的に健康の自己管理に取り組む生徒の育成
優良賞	南部中学校	中澤 暢雄	I C Tを活用した授業改善と校務運営のための環境整備
優良賞	西部中学校	小清水育代	コミュニケーション能力の基礎を養うための指導はどうあればよいか
優良賞	十三中学校	林 宏次朗	理解や技能を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現



[実践発表の様子]

以上の審査結果を基に、去る 2 月 7 日（水）に教育委員各位を迎えて、表彰式が行われました。山本教育長からの授賞後、西部教育事務所主任指導主事 大村浩一先生より講評をいただきました。最後に、最優秀賞受賞者の宮田小学校 北村麻耶教諭と西條中学校 吉國京子教諭から教育実践についての発表がありました。詳細については当センター発行の「平成 29 年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。



外国語活動を通じて

朝日丘小学校 平島 康裕

“How is the weather today?” “It’s snowy.” 「違うよ、cloudyだよ。」

朝の会で天気について尋ねると、自然に英語が飛び交うようになった。私は、このやり取りがとても好きである。初めは恥ずかしそうに英語を話していたが、普段の生活でも、“Good morning.”と大きな声で挨拶をしたり、“Do you like apples?”と好きなものを伝え合ったりできるようになってきた。子供たちの一年間の成長を実感するとともに、これからも、子供たちのために、教師としての力量を高めていきたい。



笑顔をもっとに

比美乃江小学校 西川 果穂

教員になって1年が経つ。始めは分からないことばかりで失敗も多く、落ち込むこともあった。しかし、子供の前ではどんなときでも笑顔でいることを大切にしてきた。「先生って毎日元気だよ。先生の笑顔を見たら、私も元気になるよ」と言われたときには、子供が笑顔でいられるきっかけになっていたのだとうれしく思った。これからも、自分の持ち味である笑顔を忘れずに、子供が安心して過ごせる温かい雰囲気づくりに努めていきたい。



一瞬一瞬を大切に

宮田小学校 北村 麻耶

私は「細やかな児童理解」を大切に、子供たちと関わってきた。毎朝どんな表情で子供たちを迎え入れ、どのように関わるかを考え行動した。上手く話ができない子供とは文通をした。朝、気分がのらない子供とはハイタッチ挨拶をした。一人一人を理解し、その子にあった支援を考えることで子供の表情は変わることを感じ、何気ない行動の一つ一つにヒントがあり、心を通わせるきっかけとなることを学んだ。これからも子供と関わる一瞬一瞬を大切に過ごしたい。



仕事とは、来た球を打ち返すこと

窪小学校 増川 凜

一年目は、目の前のことに、全力で取り組むことを目標にしてきた。それは、校長先生に「仕事とは、来た球を必死になって打ち返すこと」と教えていただいたからだ。特に、学校生活の大半をしめる、授業に力を入れた。成果がでない日々逃げたい気持ちになったときもあったが、子供の「分かった！楽しい！」という声が聞きたくて、あきらめずに教材研究を続けた。そして、努力した分だけ子供たちの成長が見られ、嬉しさを味わうことができた。



充実した一年

上庄小学校 渡部 裕文

この一年は、充実した一年だった。学校行事や毎日の授業は、悩みや戸惑いもあったが、活動する中で児童の成長を感じ、教師の醍醐味を味わうことができた。児童が「できた」と喜ぶ姿を見ることで、もっと指導力を磨きたいと思った。児童の笑顔に触れたことや多くの先生方に助けていただいたことで、また頑張ろうと意欲をもてた。

まだまだ浅学ではあるが、先輩方の背中を追い、信頼される教師となるよう、前進していきたい。



初心を忘れず

灘浦小学校 前澤 稜

教員として子供の前に立ち、一年になろうとしている。劇の練習に熱心に取り組む姿、夢中で九九を覚えている姿、相手のことを考えて行動する姿に、子供たちの確実な成長を感じる毎日である。私が何気なく言った一言が、子供たちに大きな影響を与えることを痛感し、自分の言動の重さに気付き、反省することもあった。子供たちが生き生きと活動できるよう、自分の言動に気を付け、この先も初心を忘れず自己研鑽に努めていきたい。